

〔書簡〕

■(大正9年)八月七日

牛込富久町 青木幸太郎宛

東京田端西台通り六三二・六三三・六三四番地

海国少年社 振替東京二八二五六番

海野 厚一

前略、過日は失礼いたしました。

別封で私共の雑誌を一部差上げました。これは、いつぞや夜分お伺ひした時に、壁にか、つてゐた、白い覆ひのか、つてゐた学帽から、多分小学校へお通ひの小さな弟さんがおありになる事を思ひ出して、その小さい方に差上げたうございます。まだくほんのつまらないもので差上げるのもお恥しい次第ではありますが、絵だけでもごらん下さればうれしく存じます。其後吟社へお出になりましたか、私はあれきり伺いませぬ。東京も暑くて閉口ですから近々又国へ行って来やうかと思つてをります。先は右まで 勿々

■(大正10年)

青木幸太郎宛

(大本教社殿の写真ハガキ)

丹波にて 長頸子

賀正

先夜はお目にか、りながら妙に他人行儀にお別れ申しものたりな

く存じ候 今年の元日は思ひがけず丹波の宿にて迎へ申候
元朝

■(大正11年)

静岡市鷹匠町3丁目

海野 春樹宛

目黒 兄

Savonara

My dear Haru - chan
Kin - niisanga kaette
ureshii daro. Shiken - yasumi
ni nattara hayaku Tokyoe
Oideyo. Hitoride kishani
notte korarerukai ?

昨日の日曜日に静岡の草餅や白酒をうんとたべて、みんなお腹がふくれたところ。このひよろくの兵隊さんは一たいだれだろうね。

(印画紙のハガキ)

■大正十三年一月二日夜

東京目黒にて 兄

三千代殿

新年お目出度う 神戸の新春はどうだったか、初めて自分達の家庭を持ってしかも初めての土地で迎へたお正月は定めし去年までとは違った趣だったと思ふ。こちらは事もなく極めておだやかなお正月だった。父上と亮之助と三人、昨日の元日は、前日油断して餅を買いそくね、依つて今年はお雑煮ぬき、蛤のお吸もので屠蘇を祝つた。それに昨日は静かな暖かない、元日だった、午後から小田島樹人が